

1 教育目標

いたわり ほげます 平和な学校 ～「平和は城山から」～

学校の合言葉「Peace (ピース)飛び交う、楽しい学校をつくろう」

2 学校経営方針

○予測が困難な時代と到来と言われる2030年を生き抜くための力「自律」「対話」「選択」を高めることが本校教育活動のすべてがねらうところ。

○これまでの日本型教育の実践とICTとを最適に組み合わせていくことが大切であり、学校教育の基盤的な道具としてICT機器の効果的な活用を進めていく。

○目指す学校の姿を達成目標として、「何のために行うのか」「目標の実現に向かっているのか」を常に考えて、全てのベクトルをそれに向けていく。

3 重点目標

自律:みんなが仲間のために動き、幸せいっぱいになるために、例示を基に考え、判断し、決定し、自ら行動する

対話:仲間と共に生きるために、仲間の考えのよさを認め、対話を通して仲間と納得解を出す

選択:問題の解決の仕方を学ぶために、仲間のよいところや学んだことからよりよい方法を選択し、情報や技術を活用して、まずやってみる

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート集計		
			肯定的割合(%)		
			生徒	保護者	教職員
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	81%	93%	93%
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	93%	93%	93%
		学校で、学習や運動をがんばるようになった	91%		
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			89%
	業務改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			93%
心の教育	生活・生徒指導	学校は基本的な生活習慣の定着を図っている		93%	93%
		児童は基本的な生活習慣が身についている	94%	90%	89%
		学校は挨拶の定着を図っている		88%	48%
		児童はよく挨拶をしている	91%	79%	60%
		「あ・は・は運動」を知っている	66%	77%	96%
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92%	87%	96%
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	94%	82%	93%
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97%	90%	96%
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	99%	96%	96%
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96%	89%	96%
道徳教育	学校は、道徳教育の充実を図っている。			96%	

	教育相談	学校は教育相談支援体制が整っている。			96%
	児童会活動	児童会活動に変容が見られるようになった。			81%
	読書活動	学校は読書指導の充実を図っている		82%	88%
		児童は読書に親しんでいる	80%	63%	96%
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風の実態に即した教育を行っている	92%	95%	96%
	ICT活用	学校はICT(クロームブック等)の活用に力を入れている		91%	96%
		自分は、ICT(クロームブック等)の効果的な活用の仕方がわかってきた。			77%
		自分は、ICT(クロームブック等)の活用を進めている。			74%
		児童はICT(クロームブック等)の活用している	93%	88%	92%
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	92%	93%	96%
		学校は家庭学習の習慣化が身を図っている		84%	88%
		児童は家庭学習の習慣が身に付いている	91%	78%	92%
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	93%	76%	92%
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	96%		
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	94%	87%	96%
	体力向上	基本的な生活習慣が身に付いている	87%	85%	92%
		学校は児童の体力向上や遊びの奨励を行っている		82%	96%
		児童の体力の向上が感じられる	82%	76%	80%
	食育	食に関する教育活動を行っている	86%	81%	80%
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97%	90%	89%
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる		88%	96%
		学校は、保健に関する情報提供を活発に行っている。			93%
	育友会・地区との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている		92%	93%
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			96%
校内研究の取組が、自身の実践につながった				84%	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている		85%	89%
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			93%
	その他	城山小の児童でよかった	95%		

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○児童の評価は、おおむね8割以上の良好な自己評価をしており、全体としてほとんどの児童は自己肯定感・自己有用感を持っていることがわかった。これは、全職員が「Peace(ピース)飛び交う、楽しい学校をつくろう」という学校の合言葉を意識して、子供たちを励まし褒め、自信を持たせながら指導・支援をしてきた成果である。

○保護者からの評価は全項目において、ほぼ8割以上の良好な評価を受けている。「挨拶」や「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣について、今後も連携して課題の解決を図っていきたい。

○教職員の評価は、ほとんどの項目において8割以上の良好な自己評価をしているが、「挨拶」について、肯定的な回答は48%となっており、課題が残る。これは、挨拶の中身について「どのような姿を求めるのか」ということを教職員で共通理解する部分が不足していたことが考えられる。今後、生活指導部を中心に「目指す児童の挨拶の姿」を共通理解して指導にあたっていきたい。

6 学校関係者評価

- 100周年記念行事も立派に終了して、記念すべき年だった。
- 授業参観をしたが、先生方が児童に対して温かく寄り添っていて熱意を感じた。
- 平和を大切に日々学んでいる児童の思いがアンケートの集約にも示されており素晴らしい。
- フレックスタイムの活用、学校だよりのメール配信、アンケートのグーグルフォームの活用等、校務の縮減や効率化などが図られ改善されつつあると思う。
- 働き方改革に力を入れていることが日頃から感じられていたが、その成果が数値にも表れていると思う。
- 地域での子供たちの挨拶は、返答がないこともある。自治会と家庭が連携していくことも必要であると感じる。
- 評価については、前年度と比較することで、学校としての成果と課題もさらに明らかになると思う。
- 体力については、向上していく余地があるように感じる。
- 不登校児童の人数と理由について知りたい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 評価結果をお知らせする際は、前年度と比較できるように表し、より成果と課題を明確にしていきたい。
- 体力向上については、年度後半からこれまでにない新しい取組を行ったため、現段階では数値として表れていないが、今後もこれを継続し児童の体力を図っていきたい。
- 来年度も学校目標や学校経営方針を具現化し、今回のアンケートや学校関係者評価委員会でいただいた意見を真摯に受け止め、学級経営及び授業改善に取り組み、支持的風土の醸成に努める。